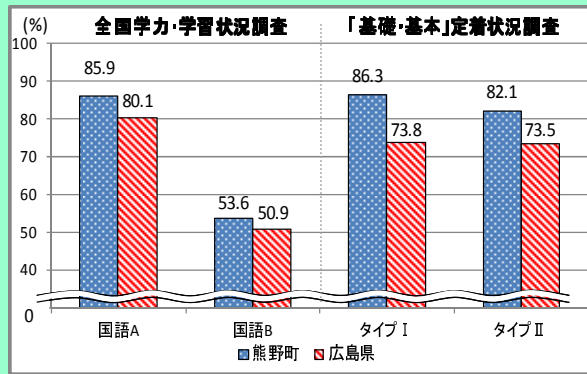


熊野町の取組

学力調査の結果における特徴～中学校国語を中心に～

学力調査の結果(中学校国語)



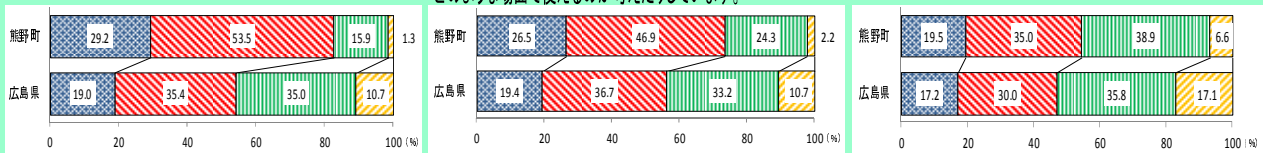
○教科調査の結果について

- ・全国学力・学習状況調査
 - 国語 A 85.9% (県平均 +5.8P)
 - 国語 B 53.6% (県平均 +2.7P)
- ・「基礎・基本」定着状況調査(中学校国語)
 - タイプI 86.3% (県平均 +12.5P)
 - タイプII 82.1% (県平均 +8.6P)

- 中学校国語や読書に関する生徒質問紙調査の結果について
 - ・国語の学習に関する意欲や姿勢についての設問 10 項目中9項目で肯定的な回答が県平均を 10P 以上、上回っている。
 - ・生徒質問紙「本や資料などを利用して学習する」において、肯定的な回答が県平均を 7.3P 上回っている。

H26「基礎・基本」定着状況調査 生徒質問紙調査

国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことが家でも本や資料などを利用して学習しています。どのような場面で使えるのか考えたりしています。



■よくあてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■まったくあてはまらない

教育委員会の取組

町内全校を学力向上指定校に！

熊野町には中学校 2 校、小学校 4 校があります。

熊野中学校区は、広島県教育委員会から「学力向上総合対策事業」の指定を受けていることから、もう一方の熊野東中学校区を町独自で「学力向上対策事業」として指定することにより、町内全校を学力向上に係る指定校にしました。

国語科部会では！



研究授業の様子
(熊野中学校区)



部会での協議の様子
(熊野東中学校区)

(平成26年度 各中学校区の取組)

| | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 熊野中学校区 (県指定) | 熊野東中学校区 (町指定) |
| 熊野中学校 熊野第一小学校 熊野第三小学校 | 熊野東中学校 熊野第二小学校 熊野第四小学校 |
| 対策協議会 (4) | 研究推進委員会 (8) |
| 授業研 (10) | 授業研 (7) |
| 町内児童生徒の学力向上に係る協議会 (1) | |
| 小中合同公開研究会 (1) | 小中合同公開研究会 (1) |

() は回数

各中学校区では、学力調査の誤答分析を小中で行い、指導上の課題、指導改善のポイントを明らかにして授業改善に取り組みました。また 10 月には、町長や教育委員の方にも来ていただき、両校の研究推進教員が取組を発表する協議会も開催しました。

町内全体で読書活動の推進！（くまどくの取組）

熊野町では、平成24年度から家庭での読書活動を推進してきました。平成26年度からは、熊野町独自の「くまどく」事業を実施し、家庭読書の一層の推進に取り組んでいます。

「くまどく」のルール

- ・町内0歳～中学3年生
- ・子供と家族の誰かが一緒に読む
- ・1週間のうち2日以上同じ本を15分以上読む（テレビ、携帯電話の電源を切って）
- ・「くまどくノート」に本の名前と一緒に読んだ人を記入
- ・月ごとに学校や園に提出

※中学生は、
 ・「くまどくノート」に作者や本の内容も記入する。
 ・家族と同じ時に読まなくてもよい。

くまどくノート



思春期を迎え難しい息子ですが、本のことなら素直に話ができるようになりました。（中学生保護者の感想より）

くまどくカレンダー



読んでほしい本のリストを年代別に写真掲載しています。全校、全教室に掲示しています。

くまどくフォーラム

・平成26年12月6日

（プログラム内容）
 群読と合唱、好きな本を紹介した絵手紙の表彰、作品朗読、講演、くまどく実践発表（家庭、保育園、学校）



町立図書館の「図書館まつり」でしおりづくりの手伝いをする子供のボランティア

また、読書が好きな小・中・高校生が、「子供のボランティア」として春と夏の町立図書館のイベントで活躍しています。このように、熊野町では町全体で本が好きな子供を育てる取組を推進しています。

学校の取組

「課題に応じた授業改善」

熊野町立熊野東中学校

熊野東中学校テーマ：美
 （美しい授業、美しい生徒、美しい学校）

熊野東中学校では、学力調査の結果において、語彙力と表現技法の理解に課題があったことから、日々の授業で次のような工夫を行っています。



美しい学校
 生徒の作品
 （職員室前掲示）

1 意味調べ等を行ったときは「6文節以上」で短文づくりをさせる。

→調べた語句で短文づくりをすることにより、実際の活用場面を意識するようになった。
 文中の主語への意識が高まるとともに、修飾語を工夫しながら短文を作るようになった。

2 授業での学びを広げたり深めたりするために、家で本や資料を利用させる。

家で本や資料を活用させた実践例

「短歌のレポートを書こう」（第2学年）

- ① 「短歌のレポートを書く」という活動を知るとともに、「新しい短歌のために」を読んで短歌について理解し、筆者の主張をつかむ。
- ② 表現技法に着目し、それぞれの短歌の情景や心情を理解するとともにレポートを書く手順を確認する。

家庭学習で作者や、教科書に載っていない作品について本や資料で調べる。

- ③ レポートを作成する。
- ④ レポート発表会をし、相互評価をさせる。
- ⑤ 表現技法を工夫して短歌の創作をし、レポートにまとめる。

書こう！
 ○○○○年○月○日
 生まれ。日本の歌人。
 本名・・・



○この短歌を選んだ理由（印象に残った表現などでも可）
 「…略（短歌からの引用）…」という文章で擬人法を使っているのが印象的でした。そして「…略（短歌からの引用）…」でたんぽぽに息をふきかける優しい情景が浮かび、良いなあと思ったので選びました。
 ○この短歌で表現されている情景や心情を三行以上書こう。
 たんぽぽの穂があるところに独特の世界観があることが表されていると思います。そして、その張りつめた独特の空気を温かい空気を送ることで吹き崩すようすが美しく描かれていると思います。
 ○作者について調べて書こう！

短歌のレポート

生徒の作品例